

京の博物館

目次

巻頭言……………	1	トピックス……………	6
おこしやす		京のかるチャーすぽっと「ひと・もの・わが館自慢」…	8
・京エコロジーセンター……………	2	美術館・博物館と私……………	11
・香老舗 松栄堂……………	4	ティータイム……………	12

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

巻頭言 集客の知恵を京に

秋道 智彌

(京都市教育委員, 総合地球環境学研究所・副所長)



この3月、中国の湖北省を1週間ほど訪れた。長江沿いの町宜昌にある三峡大学でのフォーラムに参加するためだ。そのさい、人民公社の建造物跡地を訪問した。人民公社といっても、知らない若者が多いのではないか。人民公社はいまから50年前に生まれ、1978年以降否定された中国の農村における行政と生産をあわせた全国的な組織である。

人民公社はすでに過去のものとして取り壊されている。訪問した人民公社は貴重な遺産であると紹介された。建物内には、60~70年代に使われた書類、張り紙、生活用品、毛語録、無線機器、厨房、トイレなどが展示されている。講堂の壇上には、毛沢東のほか、マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの肖像画が飾られている。

講堂で、人民公社の生産隊の制服に身を包んだ若者たちが当時の様子を示す寸劇を演じ、踊りを披露した。かれらを撮影するために多くのデジカメのフラッシュが光った。屋外の敷地には当時使われた自動車が1台おいてある。タイムスリップした感覚に捉われるなかで、敷地にある大きなクスノキの木立だけはこの50年の変化を見続けてきたのだろう。

人民公社を見学したあとで、さまざまな種類の水車を展示する野外博物館や地元の少数民族である土家(トゥジャ)族の民俗・文化を示す展示館にいった。人民公社は水車や民俗文化の見学の一環として位置づけられているということだ。

中国では観光を^{りょゆう}旅游と呼ぶ。

仲間内で、中国政府は過去の政治をも観光化しているのかとささやく人がいた。しかし、過去の遺産や文化を継承していくためには、それなりの努力と維持管理費が必要だ。水車を集めた施設では、土産物売る店が立ち並んでいる。観光客が金を落としていくためには、魅力ある商品を売る必要がある。食べ物や飲み物を提供し、踊りや歌を披露することで客の満足感をえようとする。博物館のいわゆるマッサージ効果といえるものだ。

ここでは、客を舞台に登場させる工夫もなされていた。私も、夜のショーで日本人の仲間が新郎、中国人の女性が新婦となる結婚式の寸劇に花嫁の父親として担ぎだされることになった。これなどは参加型の演出であり、主催者側と客との一体感がねらいなのだ。

京都には多くの博物館、美術館、さらには文化を示す展示施設がある。施設の性格や規模にもよるし一般論はむづかしいが、多くの訪問者や観光客を誘致するための知恵はどのように蓄積されているのか。景気の悪い時代だからこそ、博物館への集客を考える知恵を京都から発信することが必要ではないか。何もなくても京都に人が来ると考える時代ではもはやない。博物館への集客と客の満足を考える時だ。

おこしやす

みやこ

京エコロジーセンターについて

(京都市環境保全活動センター)

はじめに

地球温暖化については、近年、世界各国で人類の生存のための喫緊な課題として認識され、各国で温暖化防止の取組が進められています。

日本も、人々の生活が便利になる一方で、電力の使用量の増加や製品の大量生産等、化石燃料を使うことによって二酸化炭素(CO₂)を大量に排出する国になってしまいました。それに伴い、ごみも大量に増え、その廃棄・焼却においてもエネルギーが必要となり、温暖化に拍車をかけることになりました。

1997年12月に「地球温暖化防止京都会議(COP3)」が開催され、2005年2月に「京都議定書」が発効されました。「京都議定書」では、2008年から2012年までの期間に、先進国全体の温室効果ガスの合計排出量を1990年に比べて少なくとも、5%削減することを目的と定め、日本では、6%削減することになっています。

また、京都市では、京都市地球温暖化対策条例を制定し、2010年までに京都市内の温室効果ガス排出量を1990年の排出量から10%削減するという目標を掲げています。京都市では、2006年の温室効果ガス総排出量は、1990年から6.1%減少したと発表しましたが、民生・家庭部門における排出量は増加している状況にあります。

私たち人間の手でもたらした温暖化を私たち自らの手で止めなければなりません。そのためには、もう一刻の猶予もないと言われています。

そうしたなか、京エコロジーセンターでは、みなさんが環境問題の取組に対して、日常の生活を通し、気づき、学びそして行動に移し、次世代の人たちに綺麗な地球を引き継ぐことができるような社会を実現することが我々の使命であると考えています。

施設の概要

京エコロジーセンターは、京都市伏見区の京阪電車藤森駅の西に位置し、京都市青少年科学センターに隣接した施設です。

身近なごみ問題から地球規模での環境問題まで幅広い視点に立った「環境意識」の定着を図り、家庭、地域、職場、学

校などあらゆる場所で、環境にやさしい実践活動の輪を広げるための拠点として、「持続可能な循環型社会」の形成を目指しています。



京エコロジーセンター外観

設立の経緯

ごみ問題に関する学習施設及び環境学習の施設として、1996年12月に「もっと元気に・京都アクションプラン」において、COP3の開催に伴った記念センターの整備を図るために計画されました。

1997年12月に京都市で開催された「地球温暖化防止京都会議(COP3)」を契機に、1998年の基本構想策定や1999年の基本計画策定を経て、京都の環境学習、環境活動の拠点となるべく、2002年4月21日にオープンしました。

館内案内

<1階>



エントランスホール

エントラスホールには、「ごみ【ごみ】」、「地球温暖化【でんき】」、「環境の活動の輪を広げる【ひと】」を伝える大型の球型をした投影機があります。

人力発電マシンや日本人1人が1日に使う資源量と重さを比べるシーソーなど、エネルギー・資源問題を身近に感じるための「エコロジー体験コーナー」や、世界中で深刻な問題となっている地球温暖化と私たちの暮らしとのつながりを考える「気づきと学びのひろば」があります。温暖化が地球にどんな影響を与えているか気づくことができます。

〈2階〉



見るだけでなく感じるイベントも多数開催

市民団体や企業などの、環境保全への取組を展示しています。展示は定期的に変ります。

また、情報コーナーでは、エコロジーについて解説した映像をご覧ください。38種類の映像が揃っており、親子でお楽しみいただける内容となっています。

〈3階〉



豊富に資料が揃う図書コーナー

環境に関する書籍や資料を約5,500冊揃えた「環境図書コーナー」を設置しています。環境に関する勉強や、夏休みなどの宿題の参考となるものがたくさんあり、机に座ってゆっくり読んでいただくことができます。

また、多くの来館者の要望に応え、2008年4月から一部を除いて書籍の貸出を行っています。

環境図書コーナーの横には、間伐材を使用したテーブルや椅子を設置し、くつろぎと語り合いのための「交流コーナー」や、自然素材のおもちゃで遊べる「こどもひろば」を設置しています。

他に、市民グループや環境活動を行う団体に有料で部屋をお貸ししています。「会議室」やエコクッキングなどに最適な「エコ厨房」、エコクラフトのための「リサイクル工房」があり、午前9時から午後9時まで利用いただけます。

〈屋上〉

京エコロジーセンターでは、太陽光による発電や雨水の利用を行っています。屋上では、太陽光や風力による発電、雨水利用など自然エネルギーの活用が学べるようになっています。

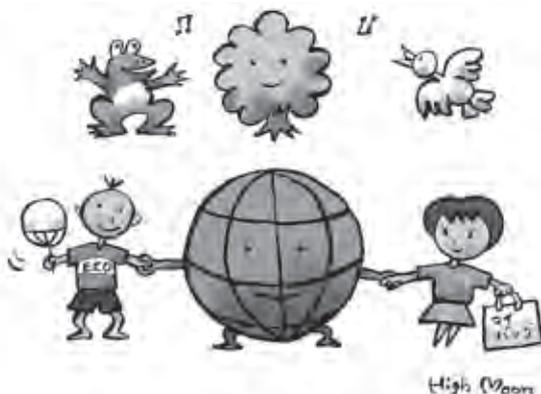
また、生物が生息できるように人工的に池などの空間「ビオトープ」を作り、屋上緑化を行っています。夏には、池でヤゴなどの観察ができます。「ビオトープ」は、1階にもあり、池の水は雨水を利用しています。

他に、野菜作りをする畑もあります。子どもたちが野菜を穫った後、生ごみをできるだけ少なくするエコクッキングで料理を作り、出た生ごみをミミズを使ったコンポストに入れ堆肥を作り、また、畑に堆肥を戻すという「循環」の勉強をしています。

1階から屋上まで、地球規模の環境問題から、京都ならではのエコロジーの知恵まで、楽しく体験しながら学べるセンターになっています。

また、京エコロジーセンター 高月 紘館長は、現在、石川県立大学教授（京都大学名誉教授）である一方、プロの漫画家として一コマの環境マンガを描いています。

館内には、館長のマンガをたくさん展示しており、マンガを通して、子どもから大人までが環境について学ぶこともできますので、ご家族揃ってのご来館をお待ちしております。



高月館長によるイラスト

京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）

所在地 〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
TEL 075-641-0911 FAX 075-641-0912

交通 京阪電車「藤森駅」下車西へ徒歩5分
地下鉄・近鉄「竹田駅」下車東へ徒歩13分
市バス「青少年科学センター前」下車南へ100m

開館時間 9：00～21：00（1・2F展示室は17：00まで）

休館日 木曜日（祝日の場合は翌日）、
年末年始（12/26～1/4）

入館料 無料

URL <http://www.miyako-eco.jp>

※団体（5名以上）の見学プログラムあり、見学時間等については要相談

匠の伝統の手技を今に伝える

香老舗 松栄堂（お線香の製造工程見学）

松栄堂について



京都本店外観

平安遷都以来、長らく日本の都であった京都。都人が作り上げたその町には、さまざまな文化が生まれ、技術が受け継がれてきました。人々の暮らしに潤いと安らぎを与えてくれるお香もその一つです。

日本の香文化を今日に伝え守り続けている松栄堂は、今からおよそ300年前（宝永2年）、京都で創業しました。丹波篠山の里長であった畑六左衛門守吉が商いの道を興した「笹屋」に始まります。以来、12代目に至る今日まで、一貫して香りづくりに取り組んできました。松栄堂の香りを支えているのは、300年の歴史に培われた豊かな経験値・情報力・技術力。常にメーカーとしての誇りを胸に、日本の香り文化を担い続けています。

お香の歴史

日本でのお香の歴史は、仏教伝来と共に始まりました。当時のお香は宗教用として、現在のお焼香のような使い方が主だったと考えられています。奈良時代に中国から伝わった数種類の香薬類を配合する「薫物」が王朝貴族のあいだでは生活に欠かせない嗜みの一つとして発展しました。『源氏物語』や『枕草子』などの王朝文学には、貴族たちが自ら調合した好みの薫物を衣装に薫きしめたり、贈答に用いていた様子が描かれています。また、この頃には匂い袋の原型となるもの

が既に存在しており、衣服や道具に香りを移すだけでなく、防虫の役目も果たしていたと思われます。鎌倉・室町時代になると複雑な配合の薫物よりも、沈水香木（沈香）そのものの香りを楽しむことが武士たちの間で広まりました。香木をたき、その繊細な香りを鑑賞する方法が工夫される中で、様々な道具や手前作法が整えられ、今日に至る香道の基礎が成立したのです。江戸時代には、香道がさらに普及する一方で、お線香の製造方法が中国から伝えられます。この画期的な形状のお香はたちまち庶民に流行し、現在まで最も一般的なお香として暮らしの中で親しまれています。

お香の原料

お香の原料として使用される天然香料は数十種類あります。多くは中国や東南アジアを中心とした海外から日本へもたらされる、いずれも大変貴重な天然香料です。



原料各種

これらは総称して「草根木皮」と呼ばれます。

調合の中心となるのは、沈香・白檀などの香木です。特に重用される「沈香」は、さまざまな外的要因によって木質部分に樹脂が凝結し、樹木自体が枯れていく過程で熟成されてできたものです。インドシナ半島、インドネシアなどの熱帯雨林で産出され、その中でも品位の高いものは「伽羅」と呼ばれます。「白檀」は、インド、インドネシア、マレーシアなどで栽培されており、薫香用の他にも薬用、彫刻工芸品、扇などに使用されており、日本で最も親しまれている香木です。

香房の見学

松栄堂の香房では、昔ながらのお線香の製造工程を見学することができます。江戸時代初頭、中国から伝わったお線香の製法を今もなお職人達が受け継ぎ、次世代へと伝えていきます。熟練された匠の技を是非間近でご覧ください。また、隣接している展示室では、お線香の原料として使われ

ている天然香料やさまざまな種類のお香を実際に手に取り、見ることができます。

長い歴史の中で育まれてきたお香文化、日本の香りを身近に感じ、また日常の中で香りを楽しむきっかけづくりになればと願っています。

お線香ができるまで

微妙で深みのある香りは、厳選された素材を複雑に調合することで生まれます。松栄堂では選び抜かれた原材料を使い、高い品質の香りをお届けしています。職人の手により、昔ながらの製法が今も生きる「香房」、機械化により安定した品質の製品を供給する「長岡京香場」。この二つのものづくりの現場が日本の香りの伝統技術の継承を支えています。



さまざまなお香

〈お線香の製造工程〉

①計量・調合・攪拌

原料となる様々な漢薬香料を粉末にし、正確に計量します。製品に応じて複雑に調合した原料にベースとなる^{たぶこ}楠粉を加え攪拌し、^{ふるい}篩にかけて均一に混合します。



②練り

篩にかけた原料を^{こんれんき}混練機に入れ、攪拌しながら適量の湯と着色料を加えます。熟練の技と勘で、温度・湿度の変化に対応しながら、約30～40分かけて粘土状になるまで練り上げていきます。



③玉締め

品質の安定を保つため、練り上げた素材を型に入れ、円筒状にプレス成型します。



④押し出し・盆切り

成型した素材を油圧式押し出し機に入れ、^{すがね}素金と呼ばれる型の小さな穴から押し出します。それを^{ぼんいた}盆板と呼ばれる板に受け、竹べらで両端を切り落とします。



⑤生付け

盆板上の柔らかい^{てほんいた}お線香を手本板と呼ばれる板に移し替え、隙間のないように敷き詰めて揃えます。

手本板からはみ出した部分を切り落とし、乾燥用の板に移し替えます。



⑥乾燥

お線香が敷き詰められた乾燥用の板を積み重ねます。温度・湿度を一定に保った乾燥室に入れ、送風機で空気を循環させながら、数日かけてゆっくり乾燥します。



⑦板上げ

完全に乾燥したお線香を製品に応じて計量して束ね、パッケージに入れて仕上げます。



香老舗 松栄堂

所在地 〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル東側

TEL 075-212-5591 FAX 075-212-5596

交通 地下鉄烏丸線「丸太町駅」下車 7番出口から徒歩3分

開館時間 10時～12時、13時30分～15時

休館日 土曜・日曜・祝日

所要時間 約30分

見学可能人数 10名まで

料金 無料

申込み方法 1週間前までに電話で予約

ホームページ <http://www.shoyeido.co.jp>

トピックス

他都市視察

平成21年3月27日、大阪府にあります「大阪市立海洋博物館 なにわの海の時空館」（大阪市）と「サントリーミュージアム[天保山]」（大阪市）を京博連会員35名で訪問しました。



大阪市立海洋博物館 なにわの海の時空館にて

午前中は、「大阪市立海洋博物館 なにわの海の時空館」において、学芸員から博物館の概要についての講義をお聴きした後、“天下の台所 大坂”を支えた海上交易の歴史を中心とした展示の見学をしました。

午後からは、「サントリーミュージアム[天保山]」を訪問。学芸員に詳しい説明していただきながら「インシデンタルアフェアーズ うつろいゆく日常性の美学」と題した現代美術の展示を見学しました。

両館ともに大変温かく迎えていただき、博物館運営についての研修を深めるとともに、参加者の皆様方の交流の場としても和やかな雰囲気の中、充実した一日となりました。



学芸員からの講義
(大阪市立海洋博物館)



大航海時代の道具を使って方角を知る
(大阪市立海洋博物館)



川底の砂をさらう
(大阪市立海洋博物館)



菱垣廻船の実寸大の再現で説明を受ける①
(大阪市立海洋博物館)



菱垣廻船の実寸大の再現で説明を受ける②
(大阪市立海洋博物館)

博物館ふれあいボランティア養成講座

平成20年度から5年ぶりに再開した「博物館ふれあいボランティア」の養成講座は、3月11日に全6回の講座が修了いたしました。

1月と2月に実施した第4・5講は、京都橘大学教授の一瀬和夫先生とハンズ・オンプランニング代表の染川香澄先生によるワークショップを行いました。染川先生からは、利用者主体の博物館の展示について、具体例を交えながら説明いただきました。一瀬先生には、博物館に関わるいろいろな立場に立って展示を考えるロールプレイにより、博物館を総合的に理解することを教えていただきました。

また、第5・6講では、受講生がグループ発表を行い、博物館の展示上の工夫、奥深さを実感されました。

最終の第6講は、泉屋博古館の全面的な御協力により、会場を御提供いただきました。博物館ボランティア導入館のうち10館の御担当者にお越しいただき、実際の業務内容を説明いただきました。その後の修了式では、京博連の樋口 隆康会長から修了証を交付され、受講者の方々には大変喜んでいただきました。

養成講座を修了された方々は、今後虹の会会員として、養成講座で学ばれたことを基に、来館者に喜んでいただけるよう博物館ふれあいボランティアとして活動していただくこととなります。本講座は、今後4年間(平成24年度まで)引き続き実施予定ですが、より博物館でのボランティア活動に役立つよう養成講座のカリキュラムを一層吟味し、今年度も実施していきますので、御協力いただきますようよろしくお願いいたします。



講座風景



講師による説明①



講師による説明②



修了式

京都市博物館連続公開講座

毎年多くの市民の方に御参加いただいています。博物館連続公開講座を平成20年度も全5回開催いたしました。今回は第4・5回の講座について御紹介いたします。

第4回 1月28日(水) 京都生活工芸館 無名舎

講演：「四季二十四節七十二候・節分の設え^{しつら}」
京都生活工芸館 館長 吉田 孝次郎 氏



お座敷での講演に聞き入る受講者

第5回 2月18日(水) 表千家北山会館

講演：「利休の孫 千宗旦の時代－三千家成立－」
表千家不審菴文庫学芸室 室長 原田 茂弘 氏



熱心に受講する参加者

第4回の講座では、京町家における季節の移り変わりや暮らしなどについて興味深いお話をお聴かせいただいた後、明治の趣を色濃く残す町家と節分の設えを見学し、非常に充実した講座となりました。

第5回の講座では、茶道の家元として現代に受け継がれている三千家の成立に至る歴史的背景に踏み込んだお話をお聴きしました。また、丑年にちなんだ茶道具の展示を見学するとともに、薄茶を振舞っていただき、知的好奇心だけでなくお腹まで満たされる講座でした。

第14回 ミュージアムロード

期 間

平成21年1月31日(土)
～3月22日(日)

参加館 会場館 51館、体験協力館 1館

参加者数 約50万人（前回の約3.3倍）

プレゼント企画応募者 883名（前回の約8倍）



京博連加盟館の皆様の御協力で今年も盛大に開催することができました。参加館、参加者数も大幅に増加しました。

今回は、ミュージアムロードの実施が15回目の節目を迎えますので、より一層の充実を図りたいと考えております。

そこで、たくさんの市民、観光客の皆様が博物館施設に足を運んでいただき、当事業が「京の冬の風物詩」として定着するために、取り組んでいきたいと考えていますので、加盟館の皆様におかれましては、引き続き御協力のほど、よろしく申し上げます。



知ったはる？

ほんまもんの京都

＜参加者アンケートから＞

- 知らなかった館や、名前だけしか知らなかった館を巡ることができ、新しい発見があった
- 時間不足で全ての館は巡れなかったが、次回の京都旅行では是非巡りたいと思う
- 子どもの頃訪れた館に子どもを連れてくることができ懐かしかった
- スタンプラリーに初めて母娘で参加したが、いい思い出作りになった
- もう少し早くから宣伝する必要があるのではないか
観光業界などとも連携すべきではないか

山口家住宅 「苔香居」

山口 俊弘

わが館を紹介

京都西山の麓、東海自然歩道を苔寺から南へ徒歩5分ほどの所に山口家住宅はあります。代々庄屋を営み、公家の葉室家の執事としての士族となり約400年以上当地に住み続けております。

建物は長屋門、母屋棟、座敷棟、蔵、茶室からなり、そのうち三棟が平成11年に国登録文化財となり、平成20年には京都市特別景観建造物に指定されました。

長屋門は道にせり出した端正で風格のある茅葺（草葺）屋根。琵琶湖のよし（葦）を使用した八間にあまる草葺は江戸後期の建築。内側には下男部屋がついており、縦格子のついた武者窓や横格子のついた与力窓などが見られ武家門としての形式を整えています。門に続く南側は当時庄屋の面影を残す米蔵があります。

母屋棟は棧瓦葺き切妻屋根の厨子二階建て、長屋門に次いで古い建物で、江戸後期の嘉永年間に建てられました。土間には囲炉裏の部屋に続き台所があり、今でも使用可能な5つ竈のおくどさんがあります。町家作りとはいえ庄屋であっ



山口家外観

た為、村仕事の寄り合い及び憩いの場として多くの村衆が入りしていたことがうかがわれます。座敷棟は、明治期の建築で亀岡から移築されたもので、軒の棧の間隔から当時の亀岡の雪深さが見て取れます。細かな細工の欄干や七宝の釘格子が特徴です。



台所のおくどさん

わが館ひと自慢

春の盛苔と 秋の萌えるもみぢ

西山の麓は、苔寺に代表される苔の生育に適した気候です。山口家住宅は苔の香りの漂う住まい「苔香居」という庵名がつけられております。5月～6月には杉苔の緑ともみぢの新緑が一段と映える時期です。秋11月下旬は庭の緑、黄、赤のもみぢの共演、12月上旬は苔の上のもみぢの絨毯を楽しむことができます。四季さまざまなお茶会と春、秋開催のきもの虫干しの会などの催しがあります。



着物や帯の虫干し

わが館もの自慢

苔香居には明治・大正・昭和を生きた曾祖母の大正時代の婚礼衣裳をはじめ、そのきものと帯が約350点保管されております。分類調査、補修を兼ねて、年2回虫干しの会にて皆様にご覧頂いております。畳紙一枚一枚に書かれたメモ。そこには購入先、月日、着用した日付や外出先、合わせた帯が記されております。きもの一つ一つと対話ができ、その時代を生きた女性の生活とその背景が垣間見られます。

長屋門内部は地域の農家の方々の好意により集められた古い農機具と雑具を展示する民具の小屋があります。今では宅地化された洛西、松尾山田村のかつての平和な農村の姿を受け継ぐために、今でも収集が続けられております。



民具の小屋内部

- 所在地
〒615-8274
京都市西京区山田上ノ町25番地
- TEL
(075)392-4533
- 交通
阪急嵐山線「上桂駅」下車
西へ徒歩10分
- 休館日
不定休（事前予約が必要ですので、電話・メール等でご連絡下さい）
- 料金
大人500円
- ホームページ
<http://www.taikoukyo.com>

京都伝統産業ふれあい館

京都伝統産業ふれあい館 学芸員 北川 満哉

～京の伝統産業を一堂に集めた産業と文化と人の交わる空間～

わが館を紹介

日本の歴史のなかで永く都として栄えた京都。

京都の生み出した工芸品や文化は町衆の暮らしのなかでいしへの心を大切に育てながら絶えず新しいものを取り入れてきました。

京都伝統産業ふれあい館には、今なお受け継がれ、京都の町に息づいている美と技の世界をより多くの皆様に感じていただく伝統工芸の粋にふれる場です。

伝統工芸を多角的な視野から捉えられる工夫を凝らした展示空間です。



常設展示場

わが館ひと自慢

66種類約450点の常設展示場、各工芸品の職人さん達。

映像でも職人さんのたゆまない“技”を紹介しています。

何十年もこの道ひとすじに、研鑽した職人さんのおかげで今も京都の伝統工芸品は、技と美と心で創作され、あらゆる生活の場で伝統文化を伝えています。



京表具 裏打ち体験

「京縫」春と秋に体験教室
(毎年3月伝統産業の日ふれあい館まつりにて)

すりがた
摺型友禅染体験
(毎週土・日開催)

わが館もの自慢

京都の伝統工芸品が66品目約450点もの作品が種類ごとにコーナーに展示してあり、圧巻だと思います。日本はおろか世界にも類がないでしょう。しかも、その工芸品についての説明がされ、主要な工芸品については、加工工程も知ることが出来ます。

またふれあい館ギャラリーでは、伝統工芸品の粋を企画展示しています。2009年12月まで時代祭展を開催しています。(時代祭が行われる10月は展示がありません)



ギャラリー 時代祭展



「京竹工芸 北山丸太」コーナー

●所在地

〒606-8343
京都市左京区岡崎成勝寺町9-1
京都市勧業館(みやこめっせ)地下1階

●TEL

(075)762-2670

●交通

市バス「京都会館・美術館前」
下車徒歩5分

●開館時間

午前9時～午後5時

●休館日

年末年始、夏期設備点検時

●料金 無料

●ホームページ

<http://www.miyakomesse.jp/fureaika>

ブリキのおもちゃと人形博物館

館長 高山 豊治

(Tin Toy&Doll Museum)

わが館を紹介

昭和63年に開館、平成19年にリニューアルオープンし、ブリキのおもちゃと人形、ビートルズやマイケルジャクソン、カーター大統領、バービー人形などが、来館者の皆様をお出迎えしています。

所蔵数15,000点の内、約3,000点を展示し、毎月入替をしていますので、何度来ていただいても違うおもちゃを御覧いただけます。京都観光今昔展を常時開催し、京舞妓、京都伏見土人形、美人軸などを展示し、京都の歴史、文化にも触れていただけます。展示だけでなく、テレビドラマのロケ地にも協力したり、映画「20世紀少年」に玩具をリースしたり、販



館内風景

売もしています。京都市長からは、感謝状をいただきました。又、我が館は、日本人形玩具学会関西事務局も兼ねています。

わが館ひと自慢



高山 豊治館長

世界的に有名で、テレビ・ラジオに主演した事のある高山館長が、修学旅行生をはじめ、全国、全世界から来られるお客様に楽しいトークで館内の展示品の説明をして、喜んでいただいています。

名物館長をはじめ、多才なスタッフ陣が、講演、学芸員資格取得研修、大中小イベント企画、博物館経営指導、修復、玩具・人形の供養等、全力で取り組んでいます。お気軽に御相談下さい。

わが館もの自慢

見どころ一杯の我が館ですが、特にフランスのルーブル美術館の展示品と同じミスターアトミックと新鉄人28号ロボットや昭和天皇が幼少時に遊ばれた玩具、高島屋ローズちゃん、不二家の店頭用ペコちゃんなどは、珍しく見る価値あります。

●所在地

〒600-8498
京都市下京区四条通堀川東入ル柏屋町
クオン四条柏屋町301
(朝日生命ビル前マンション3F)

●TEL

(075) 223-2146

●交通

市バス…「四条堀川」下車すぐ
阪急…「四条大宮駅」下車 東へ徒歩5分

●開館時間

午前10時～午後4時

●休館日

日曜日、祝日、年末年始

●料金

中学生以上500円 小学生300円 園児100円

●ホームページ

<http://www.mediawars.ne.jp/homepage/tintoy/add.htm>

美術鑑賞も建物も楽しもう！

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
喜島 照子

昨年まで、市庁舎の前にあった、中信御池ギャラリーが今年2月から名称も中信美術館と改められ、府庁舎正門100メートル西の下立売通に移転しました。

外観はアールデコ調の門扉を持ち、壁面はサーモンピンク系に彩られ、住宅街の中にあってもとても印象的。

開館記念のテーマは、“京都美術の精華”。過去に京都美術文化賞を受賞された芸術家達の力作を1期から3期に分けて展示。作品も新しい場所を得て、新たな価値を深めているようです。

館内は、洋風建築で一階展示室は、半地下と3本の円柱がどこかで見た風景—ギリシャ風・・・を思い出し、又その一角には、吹き向けの小さな坪庭からお茶室へ入る、和のテイストが続く。

2階展示室は南側と北側に別れ2室あります。

ただ、バリアフリーな現代にあって、階段が多いのがちょっと気がかりでしたが、よ〜く見ると建物の工夫を発見するお楽しみも加わり美術品も建物も楽しめる美術館となっています。



学校歴史博物館

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
高熊 京子

元開智小学校跡が、京都の教育の歴史的意義を後世に伝え、市民の生涯学習や子どもたちの学習活動に役立てる施設として生まれかわってから10年。そのうちの5年間ボランティアをさせていただいています。

遷都の後、京都の将来の発展のためには教育こそがもっとも大切であると考え、学校令ができる3年も前に64もの小学校を市民の手で作りました。地域ぐるみで子ども達の安全を見守っていこうとしている自治連やPTA活動の下地は、この明治の京都人のパワーにあったのだと思います。誰でも卒業経験のある小学校ですから、ここに来館されると懐かしく、熱心にご覧になっています。また、各市立小学校に寄贈された美術工芸品を紹介する企画展、特に「松園・松堂・淳之」展には多くの方々が来館されました。見ごたえのある正門、石堀、旧成徳小玄関寄せが移築された玄関、タイル貼の階段なども見所です。



投影式万華鏡につつまれて

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
青木 いく江

こども相談センターパトナの一角に、今年開館5周年を迎える「京都万華鏡ミュージアム姉小路館」があります。昨年6月、4周年を記念して、日本初の投影式万華鏡が完成致しました。部屋いっぱいに幻想的な世界が広がり、それはまるで万華鏡の中につつまれているような感覚に囚われ、時間の経つのも忘れてしまう程です。これを楽しみに来館されるお客さまも多く、ここで私たちボランティアは簡単な解説を担当しています。時には驚きと共に歓声上がることも有り、こういう瞬間に出会うことがボランティアを続けていく上での原動力になっているような気が致します。

京都市博物館ふれあいボランティアを始めて5年、この間多くの方々とふれあい、色んなことがありましたが、充実した楽しい時間を多く持てたことに喜びを感じています。





「遺された物に対する思い」

白沙村莊 橋本関雪記念館
副館長 橋本 眞次

橋本関雪という画家のその画業についてはよく知られる所なので、今回はそれ以外の側面について少し話したいと思います。この関雪という画家には蒐集癖があり、それは時に成功者の道楽として受け取られている面もあります。要するにお金があるから美術品を集めるのだという認識なのですが、実はそうではありません。これは生来から持っていたいわば宿業しゆくごうのようなものであり、父である海関も同様の癖があり特に古い書物や詩書、仏像などを中心としたコレクションがあったようです。その業によりあまり裕福ではない、生活費のほぼ全てが絵具代に費やされていた時期にも優品を見つけるとツケで買って来てしまうことが多くあり、家計を預かっていたよね夫人は困り果てていたようです。特に20代後半の頃は絵が売れないにもかかわらず、多数の美術品を買いあさる上に文展へ出品するための大作を描く事が多く、絵具代かきが嵩んで家計を圧迫して家族揃って飢えていた事もあったようです。その折に一家を助けたのが岡崎や南禅寺界隈の住民達であり、今もよく知られる疎水の“関雪桜”はその人々への報恩のために植樹された経緯があります。その際に桜の苗木を買う代金も、関雪の手元には残っておらずよね夫人がこっそりと臍繰へそくっていた備蓄で賄ったようです。その頃の関雪は画家として大成していたのになぜ残っていなかったのかというと、今度は神仏分離令により困窮していた寺社の救済を行っていたからです。困窮し石塔や古い掛け軸のみならず本尊をも売ってしまうところや、廃寺になり遺された文化財が散逸するケースが多くあり、それらは海外に流出してしまう事もあっ

たようです。その事を憂いた関雪は集積された文化遺物の保全のために援助しようと考えたようで、惜しみなく運営や改修の資金を提供していました。彼の営んだ白沙村莊にある多数の石造美術は、その御礼として提供された物なのです。その文化を守る行為は画業にも顕著に反映されており、斬新である事に重きを置かず古典に内包された美意識を反映した作風を以て「新古典」という画境を拓きました。彼は西洋の文化におもねる事は無く、かといって反発する訳でもなく新時代に向けた新たな古典の形を模索していたのだと思います。そういった曾祖父の影響からか、白沙村莊という場所は造営当初からほぼ変わる事無く今に受け継がれています。祖父も父もその在り方を変えようと思えば出来たはずなのですがしませんでした。関雪が自身の先達や前時代に思いを馳せ大切にしたように、これからの子々孫々も関雪や私達に思いを馳せながらこの場所を大切にしてくれるのでしょうか。



白沙村莊北門にて

発行 平成21年5月

編集・発行者 京都市内博物館施設連絡協議会事務局（京都市教育委員会生涯学習部内）

所在地 〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下る 元生祥小学校内 TEL：075-251-0410 FAX：075-213-4650

ホームページ http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-17-1-0-0_5.html